

## 図書館を創る ―本と人、人と人をつなげるユニークな企画展―

この春、芸大図書館では在校生はもちろん、新入生の皆さんに図書館で素敵な本と出会ってもらおうと、デザイン学科の学生9名で立ち上げた企画集団「企画屋0N」の企画・創作による展示「本の虫」(4月1日(月)〜30日(火))を開催しました。

インターネットで簡単に情報を得る「ネット世代」の若者たち。スマホなど携帯端末で手軽に本が読める今だからこそ、図書館に足を運び、本を手にとってみてほしい、本を開きページをめくる時のわくわくした感じや装丁を鑑賞する楽しみを味わってほしい!と、企画屋0Nのメンバーたちは、なんと書架が並び閲覧室に小さな森を作り、本に夢中になる本の虫さんたちを出現させたのです。



図書館を楽しもう!本好きの人も読書の習慣がない人も、森図書館に生息する本(の虫)を見つけることで、楽しみながら本と出会う、本展示は本と人をつなげるための新しい提案をしてくれたと思います。森図書館を訪れた利用者はわくわくしながら虫(本)を探すとともに、企画屋0Nのメンバーがデザイン・製作した本の装丁やしおりに、思わず引き寄せられていました。ひとつひとつ手作りした作品はどれも斬新で、そのクオリティの高さはデザイン学科で日頃研鑽を積んできた賜物。

インターネットで簡単に情報を得る「ネット世代」の若者たち。スマホなど携帯端末で手軽に本が読める今だからこそ、図書館に足を運び、本を手にとってみてほしい、本を開きページをめくる時のわくわくした感じや装丁を鑑賞する楽しみを味わってほしい!と、企画屋0Nのメンバーたちは、なんと書架が並び閲覧室に小さな森を作り、本に夢中になる本の虫さんたちを出現させたのです。

大学図書館では今、こうした学生と図書館の協働で創る新しい図書館づくりに取り組んでいます。その先駆けとなった芸大図書館は、これまで学生や院生が作った芸術作品や、利用者が求める新しい大学図書館を提案した展示などを紹介し、創造空間としての役割を担ってきました。これからも学生と共に創る図書館として、様々な学術・芸術情報を発信してまいります。

\*本展示は終了しましたが、大阪芸術大学ブログで展示の様子をご覧頂けます。



## 大阪芸術大学所蔵品展 蓄音機の音と形 ―音楽再生の始まり―



デザイン：デザイン学科4年生 香山美紅さん

平成25年度最初の所蔵品展、「蓄音機の音と形―音楽再生の始まり―」を4月15日(月)から5月8日(水)まで、芸術情報センター1階展示ホールで開催しました。

毎年、博物館オーディオ資料室の収蔵品を展示していますが、今回は8年ぶりに展示ホールでの開催で、昨年の倍以上、蓄音機60台とレコード16点を出品しました。1896年から1930年頃までの様々な蓄音機を年代順に陳列して、録音機として開発されていた蓄音機が、音楽レコードの登場とともに音楽再生の道具として普及していく様子と、その過程のなかで様々な形の蓄音機が作られていった様子を見ていただける展示としました。また、レコードの制作過程について、アメリカのRCAビクター社が1942年に制作した解説映像も会場内で上映しました。

授業での来場も多く、音楽・音響関係だけではなく美術や工芸、



デザイン関係の学生も訪れ、蓄音機をスケッチしたり触れてみたりしていました。4月22日(月)から1日2回、12時30分と17時からの30分、毎回テーマを変えてレコード試聴会を開催しました。生誕200年のヴェルディとワーグナー、生誕140年のラフマニノフ、カルロス・シヤリアピンなど、メモリアルイヤーを迎えた音楽家を含め、様々な種類のレコードを用意して、録音年代やメーカーによって蓄音機を選び、年代やメーカーによる音の違いを感じていただきました。来場者からは、ゆったりして見やすくなった、現代とは違うスタイルの演奏にまるでタイムスリップしたようだ、CDに至る前の歴史がよく分かったなどの感想もいただけ、展示を楽しむとともに色々な刺激となったようでした。